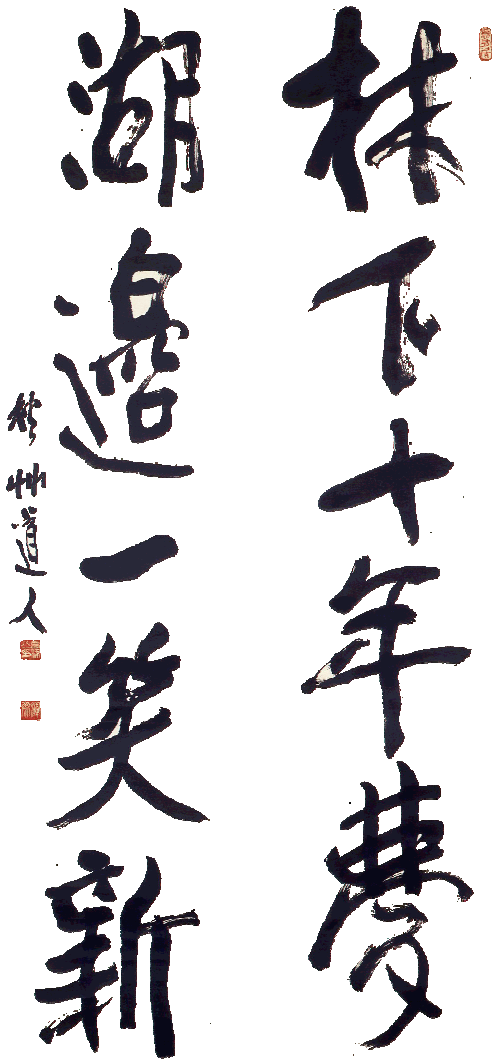
報道関係資料

企画展示 独往（どくおう）の人　會津八一

2018年9月15日(土)～12月9日(日)



①林下十年夢　湖邊一笑新
1949年　㈱中村屋蔵

中村屋サロン美術館
NAKAMURAYA SALON Museum of Art

開催概要

八一が出版した歌集『南京新唱』の自序に、「獨往にして獨唱し、昂々として顧返することなし」とあります。「独往」とは、「他人にたよらず自分の力で歩み進める」の意味で、伝統的な歌壇、書壇の外側で独自の世界を切り開いた、八一の生き方を示す言葉といえるでしょう。

1881（明治 14）年に新潟市の料亭 會津屋の次男として生まれた會津八一は、歌人、俳人、書家、教育者、美術史研究者という様々な顔を持つ、多才な文化人です。
八一と中村屋との関わりは、中村屋創業者 相馬愛蔵・黒光夫妻の長男 安雄が早稲田中学時代、八一の教え子であったことに始まります。安雄を落第させた八一を相馬夫妻が訪ね、感謝したのです。1945（昭和 20）年 3 月の空襲では、住居でもあった下落合の秋艸堂（しゅうそう）が全焼。八一を自宅に招こうとした安雄でしたが、5 月に中村屋も罹災したために実現しませんでした。その後、故郷の新潟へ戻りますが、1948 年、中村屋が営業を再開し、安雄が社長に就任すると、八一は上京のたびに中村屋を訪れるようになりました。
中村屋のお菓子のラベルには八一が揮毫したものがあり、また看板も手掛けています。1949 年には中村屋で個展も開催しました。

本展では、書家、歌人である會津八一の魅力を紹介するとともに、教育者、東洋美術史家としての八一にも触れ、さらに中村屋との関わりを展観します。

展覧会名	独往（どくおう）の人　會津八一
会　　期	2018 年 9 月 15 日（土）～12 月 9 日（日） 前期：9 月 15 日（土）～10 月 29 日（月） 後期：11 月 1 日（木）～12 月 9 日（日）
開館時間	10:30～19:00（最終入館 18:40）
休 館 日	火曜日、10 月 31 日（水）
主　　催	中村屋サロン美術館
協　　力	新潟市會津八一記念館、早稲田大学會津八一記念博物館
会　　場	中村屋サロン美術館 東京都新宿区新宿三丁目 26 番 13 号　新宿中村屋ビル 3 階
入 館 料	300 円 ※高校生以下、障がい者とその付き添いの方は無料 ※リピート割引有 会期中に当企画展の半券を呈示すると入館料から 100 円割引

展覧会構成

會津八一と中村屋

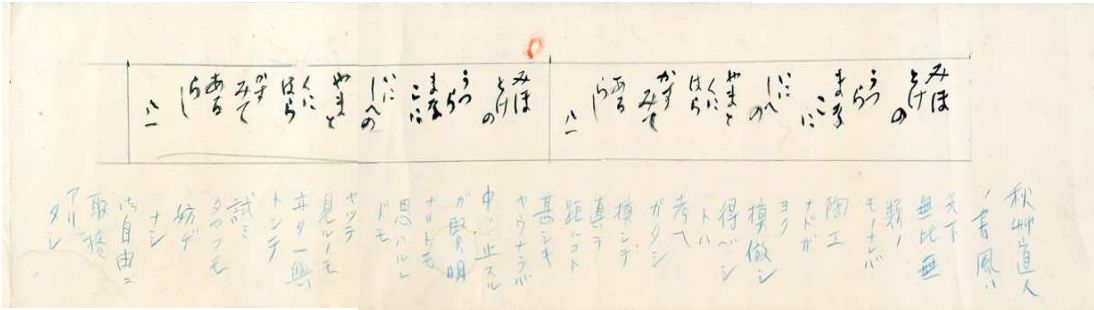
會津八一と中村屋の創業者 相馬愛蔵・黒光夫妻との関わりは、1916（大正 5）年頃から始まります。1910（明治 43）年より早稲田中学で教師を務めていた會津八一は、成績の振るわなかった相馬夫妻の長男 安雄を叱り落第させています。相馬夫妻は、それは安雄のためになると感謝しました。第二次世界大戦中、空襲の被害にあった中村屋が 1948（昭和 23）年になって再開すると、その年、愛蔵に代わって安雄が社長に就任します。その頃故郷の新潟へ戻っていた八一は、上京のたびに中村屋を訪れました。中村屋の看板や菓子のラベルの揮毫を八一に依頼したのもこの頃です。それらの文字の中には、現在でも使用されているものもあります。また、1949 年には中村屋で八一の個展も開催しました。

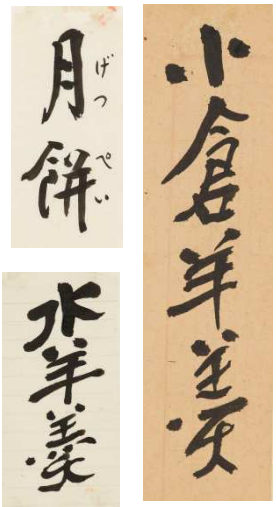
②中村屋（看板）　1951 年　㈱中村屋蔵

1958 年頃の中村屋店内。八一の看板が見える

③那可無樂也　1949 年　㈱中村屋蔵

「なかむらや」の当て字で、「なんぞ楽しみなかるべけんや」と読む反語。



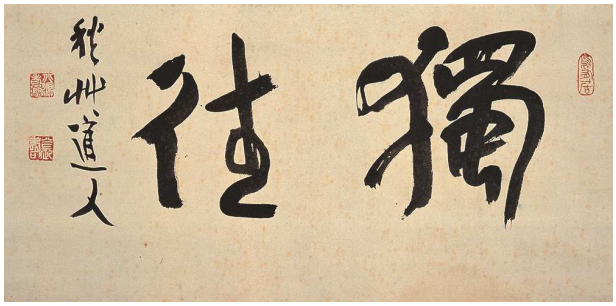


菓子銘の題字（左）　㈱中村屋蔵
羊羹の箱（上）　新潟市會津八一記念館蔵

銘々皿下図（上）と中村屋の茶器
1952 年頃　㈱中村屋蔵

銘々皿の下図には、青鉛筆で八一の製作指示が書き込まれている。

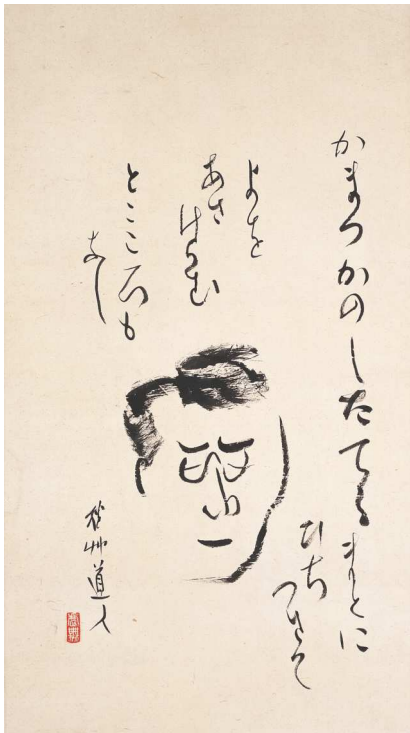
書家として歌人として

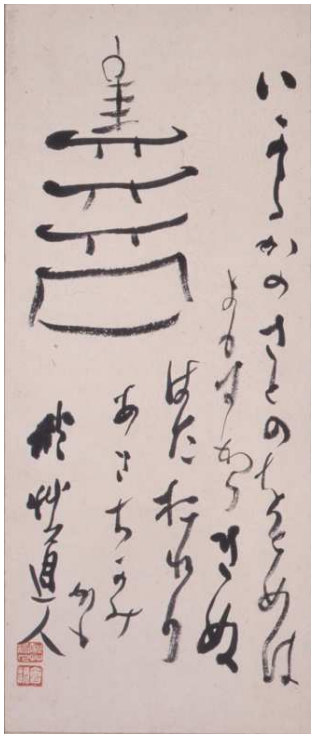


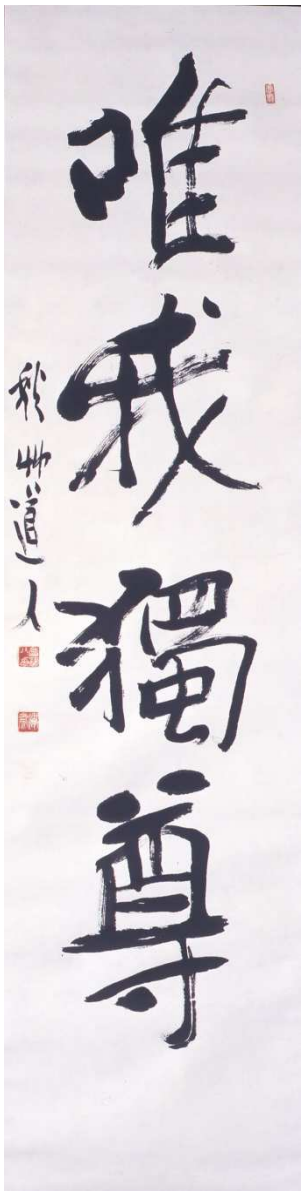
④獨往　1945～50 年頃　新潟市會津八一記念館蔵

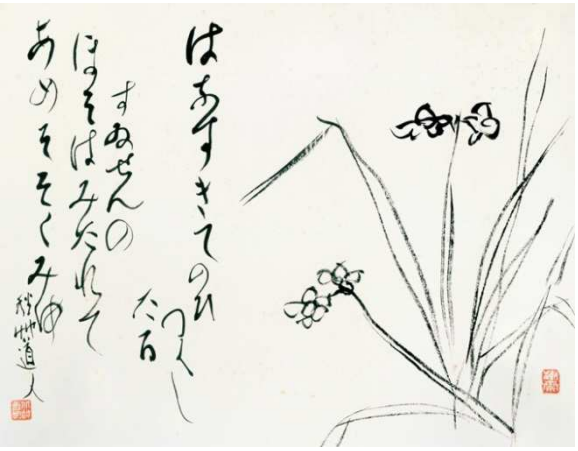
小学校に入学した頃より、會津八一は新潟の禅僧良寛の歌を好み、万葉集を読破したといわれています。18 歳の時に新潟に来遊した尾崎紅葉に面会し、俳句に熱中。さらに、東京専門学校（現早稲田大学）で受けた坪内逍遥や小泉八雲の講義は、八一に大きな影響を与えました。1908（明治 42）年に初めて奈良の古寺を巡ったことをきっかけに仏教美術の研究を始め、俳句から短歌に移行していきます。その時の奈良の古美術を主題にした万葉調のひらがな書きによる短歌は、大変評価されました。

1924（大正 13）年に初の歌集『南京新唱』を出版、その後も『鹿鳴集』、『山光集』、『寒燈集』を出版しています。書を始めたのも、旧制中学時代に短冊に俳句を書いたことがきっかけでした。その後、古代中国文字から現代の活字までを研究し、独自の書の世界を作り上げていきます。









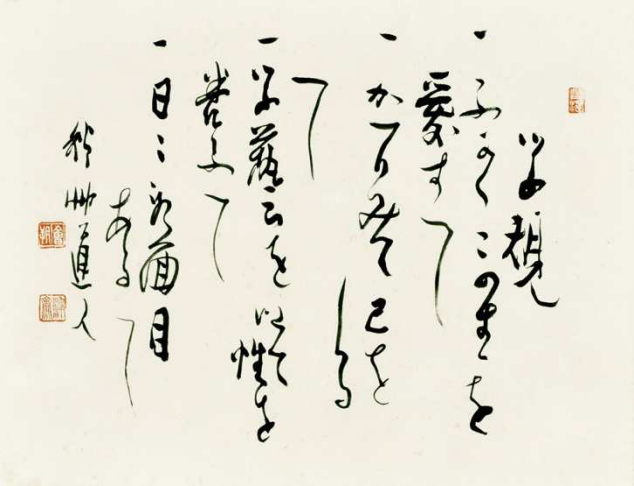
左上から
⑤雲開萬壑春　㈱中村屋蔵
⑥自画像図・かまづかの
　　新潟市會津八一記念館蔵
⑦百万塔図・いかるがの　1935 年
　　早稲田大学會津八一記念博物館蔵
⑧唯我獨尊
　　早稲田大学會津八一記念博物館蔵
左
⑨はなすぎて　㈱中村屋蔵

會津八一の油彩画

早稲田大学在学中から會津八一は西洋画への興味を持っていました。それは、古代ギリシャから当時の先端であるセザンヌにまで、広範囲に及んでいます。
早稲田中学の教師をしていた頃、八一は美術部の顧問に任ぜられました。この美術部からは、これまで萬鉄五郎や中村屋サロンのメンバーである中村彝や鶴田吾郎、また、曽宮一念等を輩出しています。その縁で、当時同じ新宿区下落合に住んでいた曽宮から、八一は油彩画の手ほどきを受け、静物画を手掛けています。

⑩書帙 燭台 マッチ箱　1929 年
早稲田大学會津八一記念博物館蔵

⑪鉢 書籍　1929 年新潟市會津八一記念館蔵



⑫学規　㈱中村屋蔵

教育者として

1906（明治 39）年に早稲田大学を卒業した會津八一は、故郷新潟の高校、有恒学舎の英語教師の職に就きました。4 年間在職した後、恩師である坪内逍遥の推薦で早稲田中学の英語教師となります。その後、小石川区の自宅に郷里の学生を預かったことがきっかけで「学規」が生まれました。それは、人間としてどう生きるかの指針で、教育者としての八一の心情を見ることができます。さらに、1925（大正 14）年からは早稲田大学高等学院教授となって英語を担当。翌年からは、早稲田大学文学部の講師として独自に研究を重ねてきた東洋美術史の講義も行うようになりました。

東洋美術研究者として

會津八一の東洋美術研究は、有恒学舎で教鞭を執っていた頃、下宿先に所蔵されていた中国の漢籍や経典に触れたところから始まっています。早稲田中学、早稲田高等学院で英語や英文学の教師を務めながら、独学で美術史学の研究をすすめ、早稲田大学文学部の講師として東洋美術史を担当するまでになりました。この頃から教育・研究のために中国の明器や鑑鏡、瓦磚などの古美術の蒐集を始めます。作品の購入には、八一自身の書画作品の販売料や揮毫料が当てられました。これらのコレクションは、現在、早稲田大学會津八一記念博物館に収められています。

雑伎俑　漢時代
早稲田大学會津八一記念博物館蔵

磚「單于和親」　前漢時代
早稲田大学會津八一記念博物館蔵

関連イベント

◆ギャラリートーク

日時：10 月 13 日（土）、11 月 17 日（土）　　両日 14 時～約 50 分

※事前申込不要

※参加費は無料ですが、入館料（300 円）を頂戴いたします

◆開館記念日に小形羊羹プレゼント

中村屋サロン美術館の開館記念日 10 月 29 日（月）にご来館の方全員に、會津八一揮毫の菓子銘が入った小形羊羹を一つプレゼント

広報用写真データ・読者プレゼント招待券のお申込について

中村屋サロン美術館で開催の企画展「独往の人 會津八一」の広報用写真データ・読者プレゼント招待券をご希望の方は、お手数ですが、下記必要事項をメールにてご連絡ください。

＜ 必要事項 ＞

①貴社・貴媒体名　　②掲載予定日・コーナー名

③ご担当者名　　④ご連絡先（電話番号）

【写真ご希望の方】　　⑤作品№・作品名

【招待券ご希望の方】　　⑥枚数

※枚数は最大 40 枚までお願いします

※発送は 8 月初旬頃を予定、お申込の受付は 10 月末までとさせていただきます

【写真使用の注意事項】

・写真は本展の広報用としての使用に限らせていただきます
・トリミングや文字の上乗せはできません
・二次使用掲載はお控えください
・写真掲載の際には作家名、作品名、年代、所蔵を明記してください

【読者プレゼントについて】

・プレゼントの際には作品写真を掲載し、本展をご紹介ください
・お手数ですが、プレゼントの受付、発送は貴編集部にてお願いします
・掲載誌・紙は下記宛先までご送付いただきますよう、お願いします

報道関係の方からのお問い合わせ先

中村屋サロン美術館
広報担当

E-mail：museum@nakamuraya.co.jp
TEL: 03-5362-7509
〒160-0022　東京都新宿区新宿 3-26-13
新宿中村屋ビル３F